

1 旭川市の現況

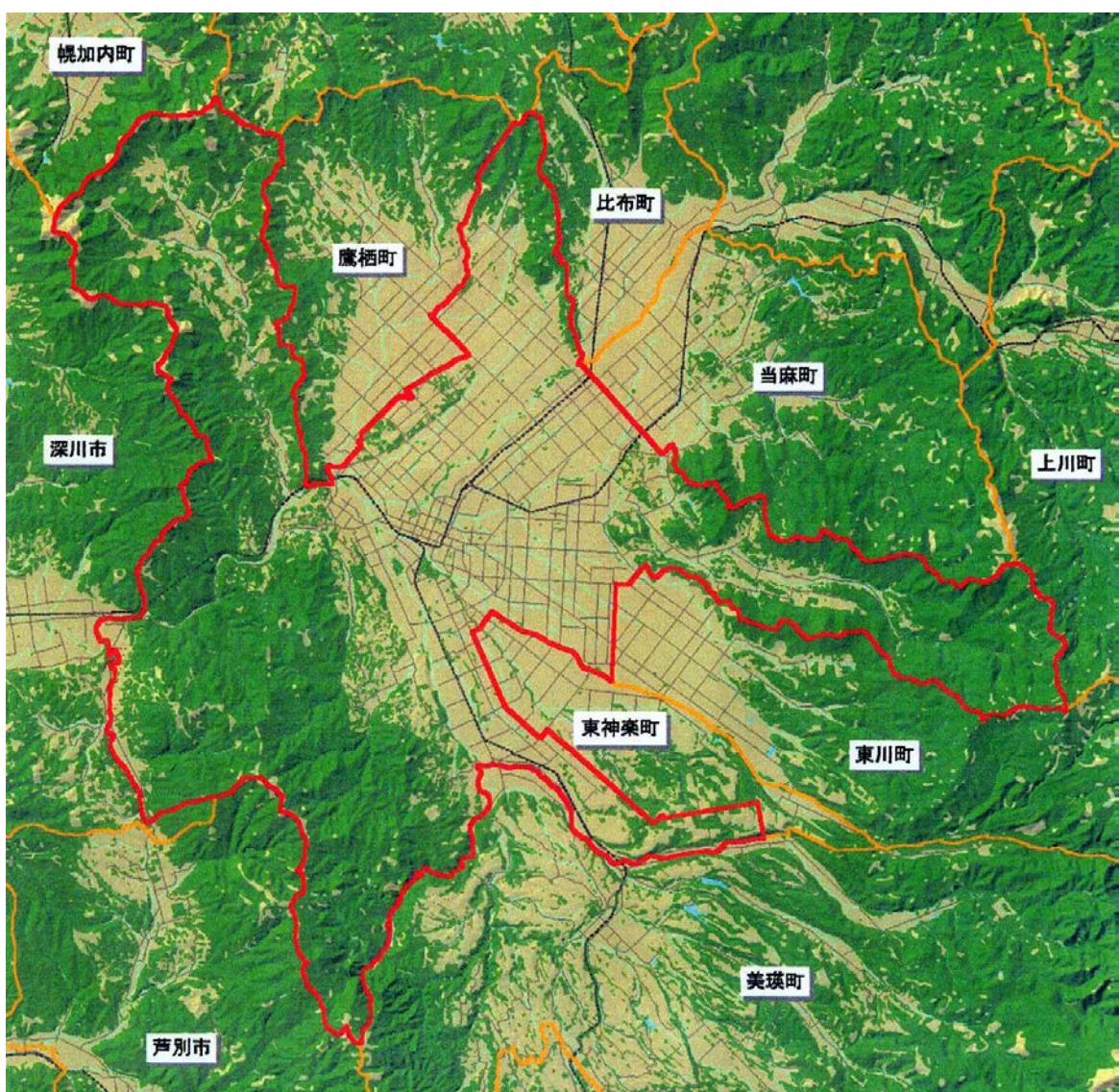
1-1) 旭川市の概要

旭川市は、東経142度22分、北緯43度46分、標高111m(市役所所在地)の北海道のほぼ中央部上川盆地に位置しています。

大正11年(1922年)の市制施行時に約6.2万人であった人口は、現在では約35万人を有する北海道の中核都市となっています。

本市は、上川圏に入植した屯田兵、農業入植者のための消費提供型都市と旧陸軍の第7師団を擁する軍事都市として成長しました。戦後数年の市街地は、現在の都心周辺を中心に約20km²強の広がりでしたが、昭和30年代からの隣接市町村との合併の結果、現在では747.60 km²の行政面積を有し、鷹栖町や比布町、当麻町、東川町、東神楽町と楔型に接する行政域を有しています。

■旭川市の地勢



※出典：上川支庁資料

1-2) 人口・世帯

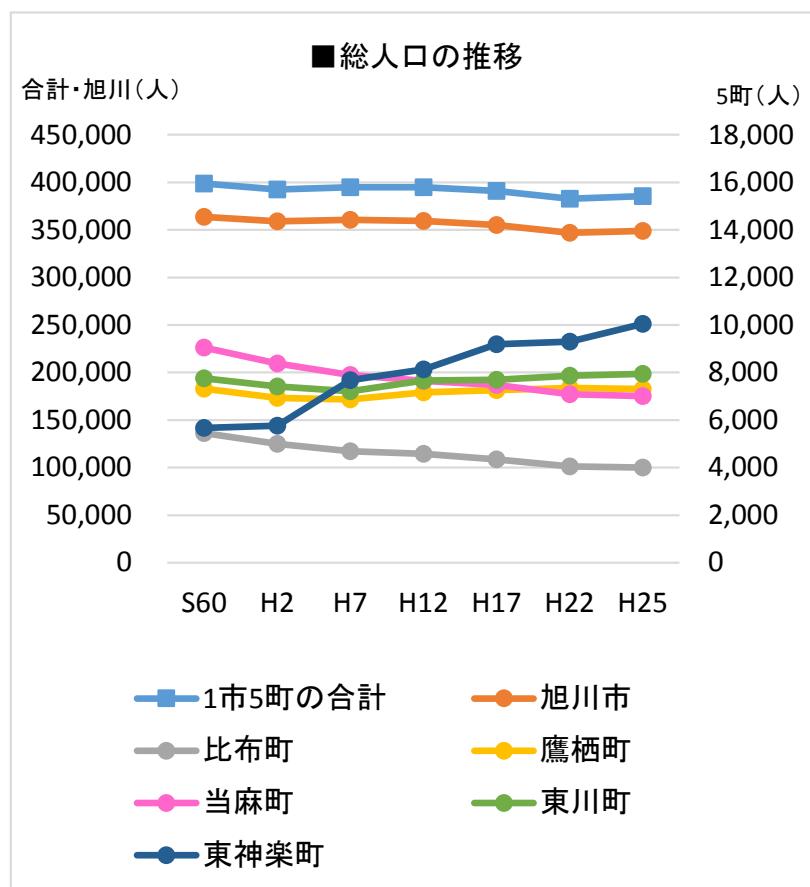
① 総人口と人口動態

旭川市の総人口は約35万人（H25）で、推移をみると微減の傾向にあります。

旭川圏内の1市5町村の合計は約38.5万人（H25）で近年、若干の増加がみられます。特に東神楽町の人口増が顕著となっています。

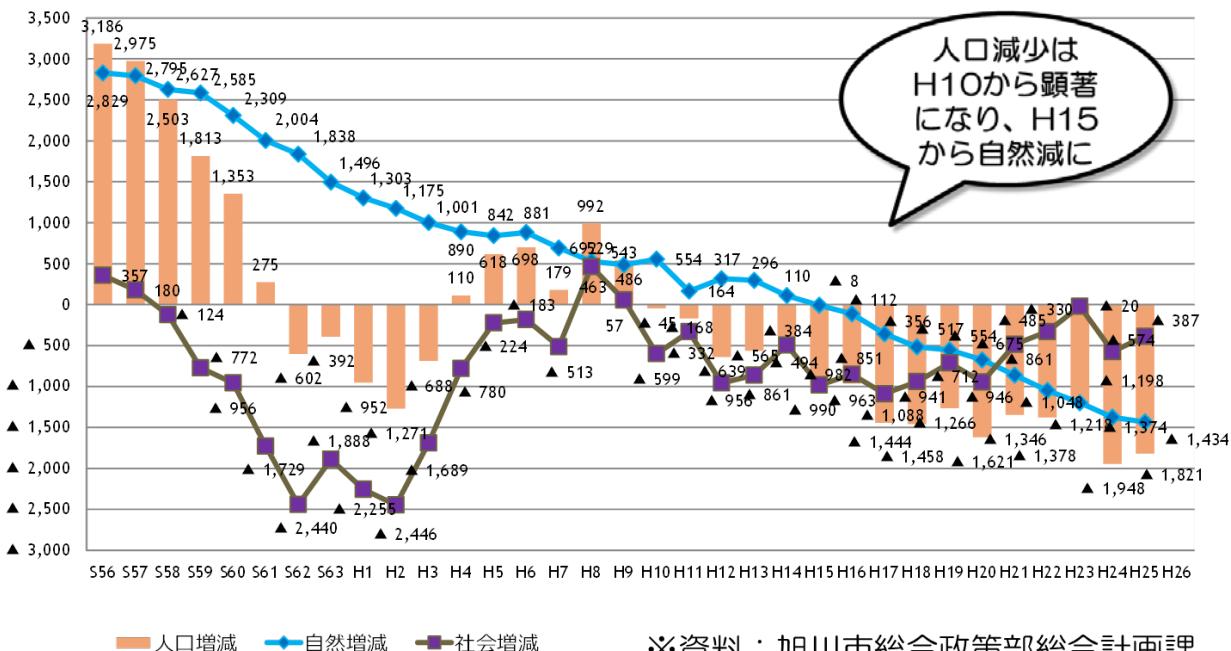
	(人)						
	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H25
1市5町の合計	398,878	392,569	394,902	394,718	390,973	382,720	385,360
旭川市	363,631	359,071	360,568	359,536	355,004	347,095	349,057
比布町	5,457	5,004	4,683	4,576	4,340	4,042	4,000
鷹栖町	7,317	6,930	6,871	7,165	7,261	7,345	7,300
当麻町	9,044	8,383	7,893	7,643	7,473	7,087	7,005
東川町	7,760	7,418	7,211	7,671	7,701	7,859	7,948
東神楽町	5,669	5,763	7,676	8,127	9,194	9,292	10,050

※国勢調査(H25のみ住民基本台帳H26.01.01)

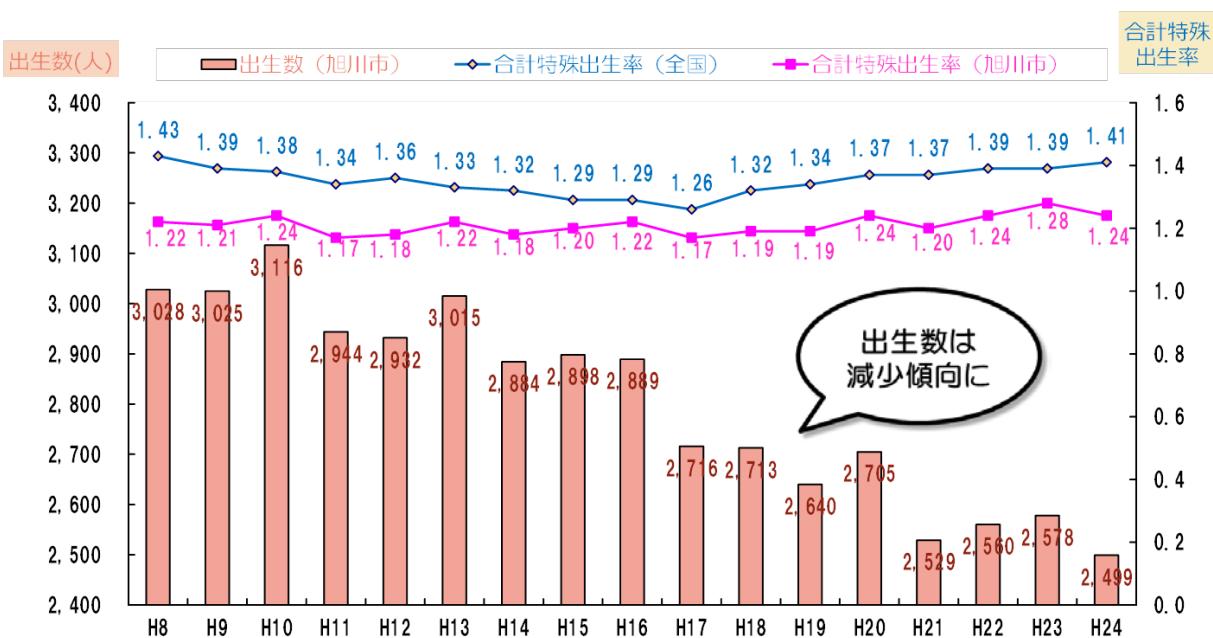


また、旭川市の人口減少は平成10年から顕著になっており自然増減は、平成15年から減少に転じています。出生率は、平成8年頃の約3,000人から現在、約2,500人程度と減少傾向が続いています。

■旭川市の人団減少の動向



■旭川市の出生数の低下



② 世帯数動態

旭川市の世帯数は約17.6万世帯（H25）で、推移をみると顕著な増加傾向がみられます。また、世帯人員数は、1.99人（H25）で小規模化が進んでいます。

旭川圏内の1市5町村の合計世帯数は、約19万世帯（H25）で増加傾向がみられます。いずれの市町村も世帯数、平均世帯人員数の減少傾向はほぼ同様ですが、なかでも旭川市の平均世帯人員数は2人を切るなど、小規模世帯化の傾向が顕著です。

■旭川市・周辺5町の世帯数の推移

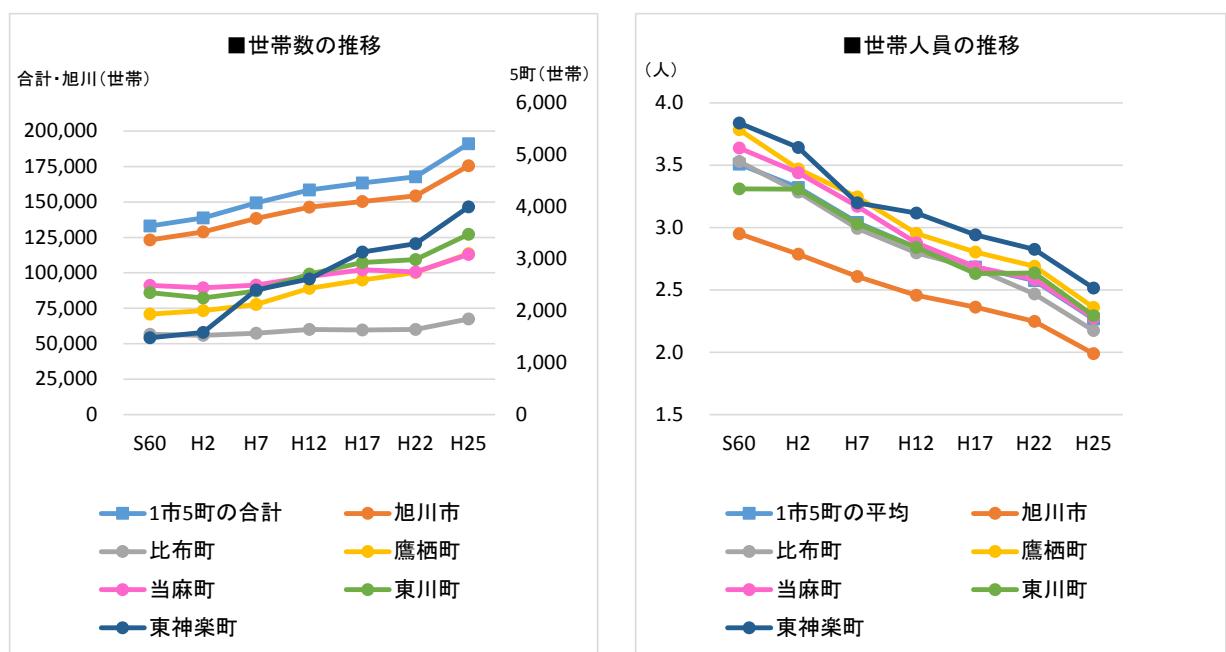
	(世帯)						
S60	H2	H7	H12	H17	H22	H25	
1市5町の合計	133,069	138,710	149,303	158,431	163,438	167,780	191,055
旭川市	123,280	128,924	138,350	146,400	150,384	154,393	175,578
比布町	1,546	1,524	1,565	1,636	1,625	1,639	1,840
鷹栖町	1,934	1,998	2,118	2,427	2,591	2,732	3,094
当麻町	2,487	2,438	2,490	2,657	2,784	2,743	3,079
東川町	2,345	2,243	2,380	2,702	2,927	2,983	3,468
東神楽町	1,477	1,583	2,400	2,609	3,127	3,290	3,996

※国勢調査(H25のみ住民基本台帳H26.01.01)

■旭川市・周辺5町の世帯人員数の推移

	(人)						
S60	H2	H7	H12	H17	H22	H25	
1市5町の平均	3.51	3.32	3.04	2.84	2.68	2.57	2.27
旭川市	2.95	2.79	2.61	2.46	2.36	2.25	1.99
比布町	3.53	3.28	2.99	2.80	2.67	2.47	2.17
鷹栖町	3.78	3.47	3.24	2.95	2.80	2.69	2.36
当麻町	3.64	3.44	3.17	2.88	2.68	2.58	2.28
東川町	3.31	3.31	3.03	2.84	2.63	2.63	2.29
東神楽町	3.84	3.64	3.20	3.11	2.94	2.82	2.52

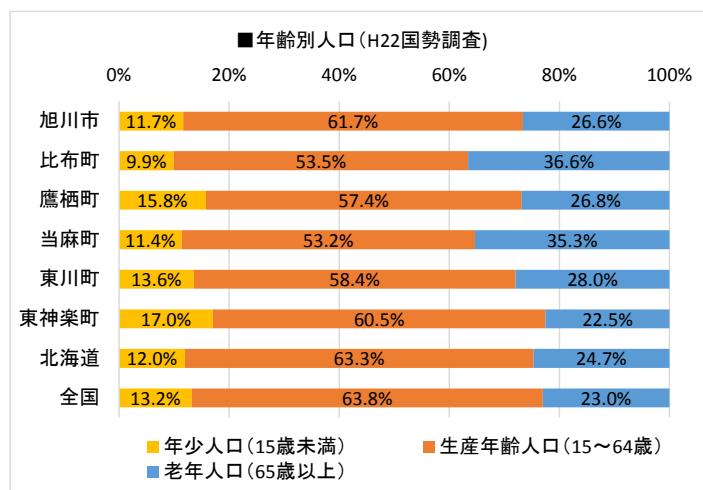
※国勢調査(H25のみ住民基本台帳H26.01.01)



③ 高齢化・少子化

旭川市の年齢別人口構成は、年少人口が約12%，生産年齢人口が約62%，老人人口が約27%で、全道の構成比と概ね同じになっています。老人人口の推移をみると昭和60年から増加傾向が進み、旭川市では27%近くになっています。圏域では比布町、当麻町の老人人口率が35%と高くなっています。

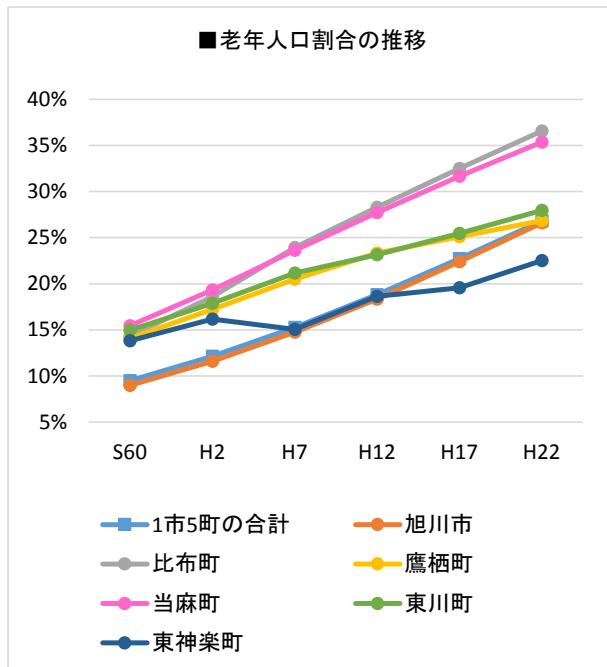
■人口構成比と老人人口割合の推移



■老人人口割合の推移

	S60	H2	H7	H12	H17	H22
1市5町の合計	9.5%	12.1%	15.3%	18.8%	22.7%	26.8%
旭川市	9.0%	11.6%	14.8%	18.3%	22.4%	26.6%
比布町	14.3%	18.6%	23.9%	28.3%	32.5%	36.6%
鷹栖町	14.1%	17.2%	20.5%	23.3%	25.1%	26.8%
当麻町	15.4%	19.3%	23.6%	27.7%	31.6%	35.3%
東川町	15.0%	17.9%	21.2%	23.2%	25.5%	28.0%
東神楽町	13.8%	16.2%	15.1%	18.6%	19.6%	22.5%

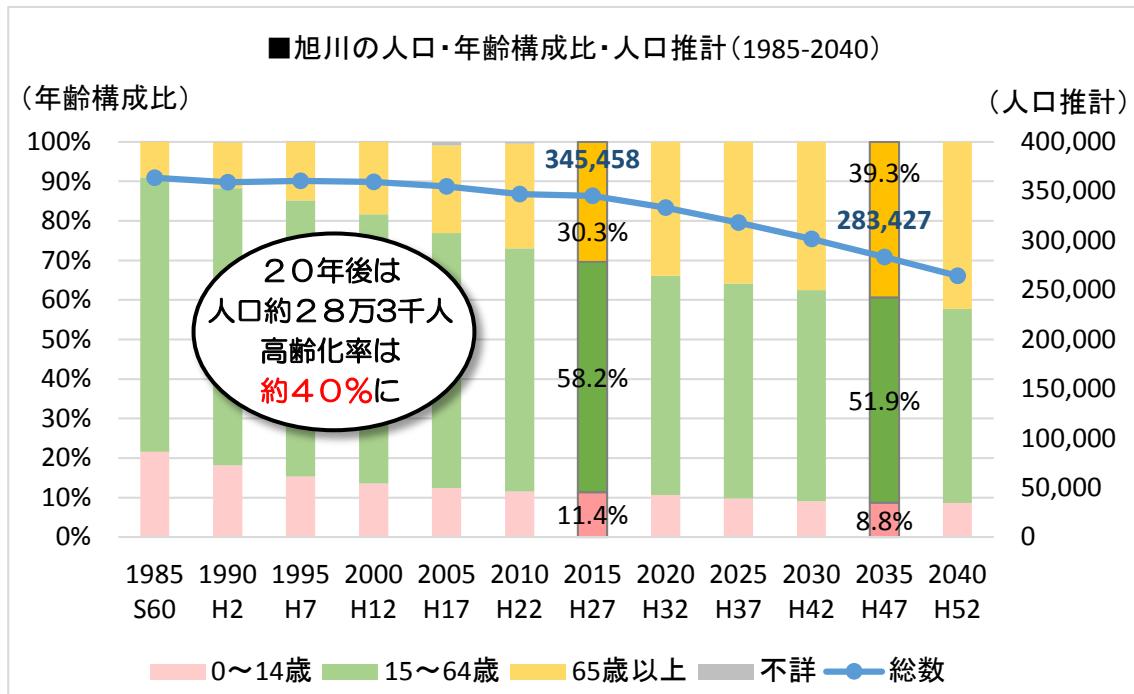
※国勢調査



旭川市の将来人口推計では、20年後の2035年頃には約28万3千人となり、高齢化率は、現在の約30%から約40%に増加することが予測されています。

また、町内会への加入率は、この10年で約70%から約60%まで低下しており、将来の高齢社会の到来とともに、地域コミュニティの活力低下が懸念されます。

■旭川市の将来人口推計

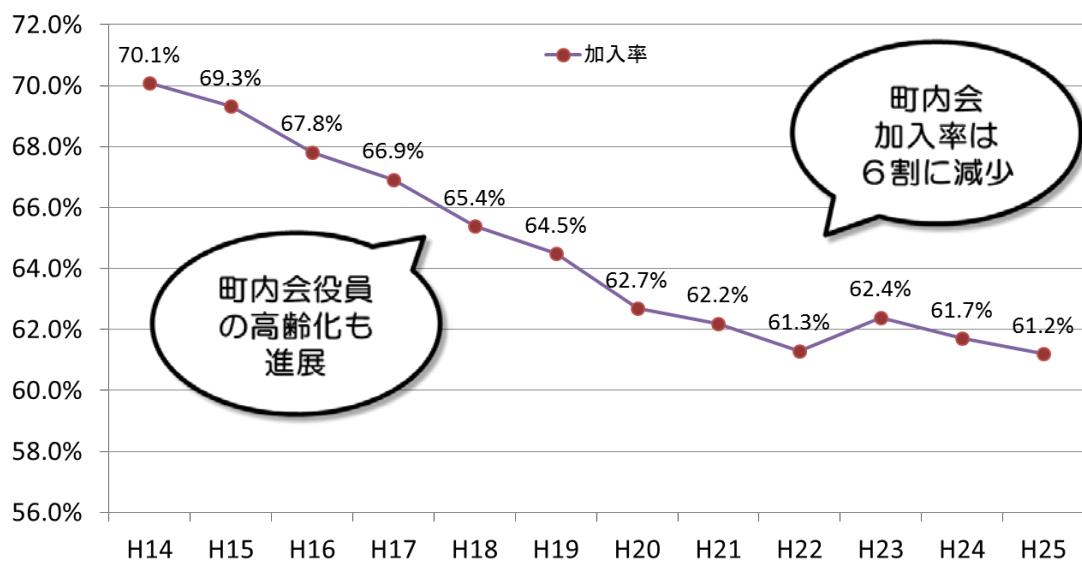


※H22までは国勢調査、H27以降は第8次総合計画

基本構想の将来人口の算出基礎をもとに推計

※基準人口：住民基本台帳（平成26年10月1日）

■旭川市の町内会加入率の動向



1-3)気象

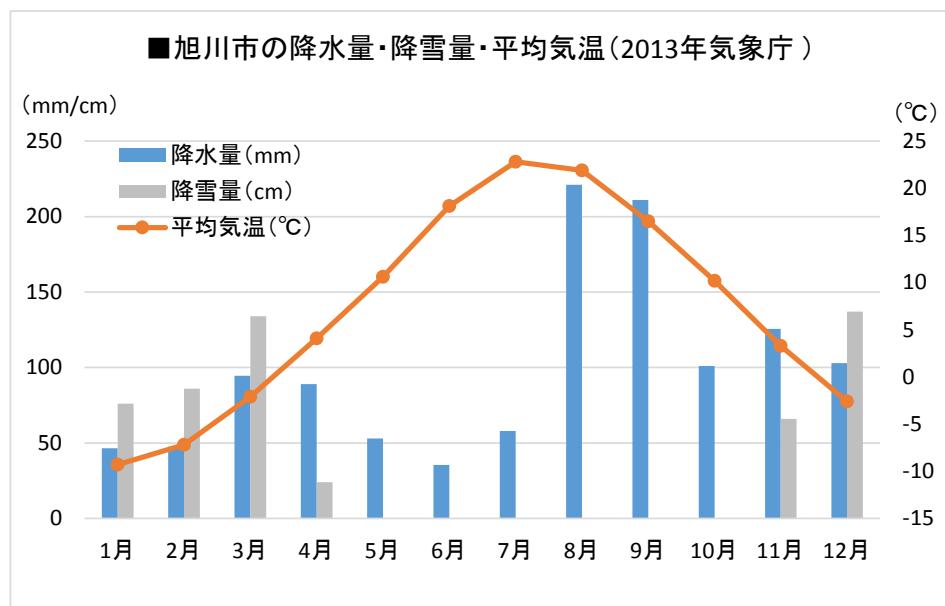
① 気候

旭川市は、盆地特有の気候で、夏期の最高気温は30°Cを超え、冬期の最低気温は-20°C以下になるなど、「夏は暑く、冬は寒い」寒暖差の激しい内陸性気候です。特に冬期は、最深積雪の平年値は1m近くと、我が国でも有数の積雪寒冷の厳しい気象条件となっています。

また、風は強くなく、秋～冬に周辺河川による川霧が発生するなどの特徴があります。

■旭川市の降水量・降雪量・平均気温

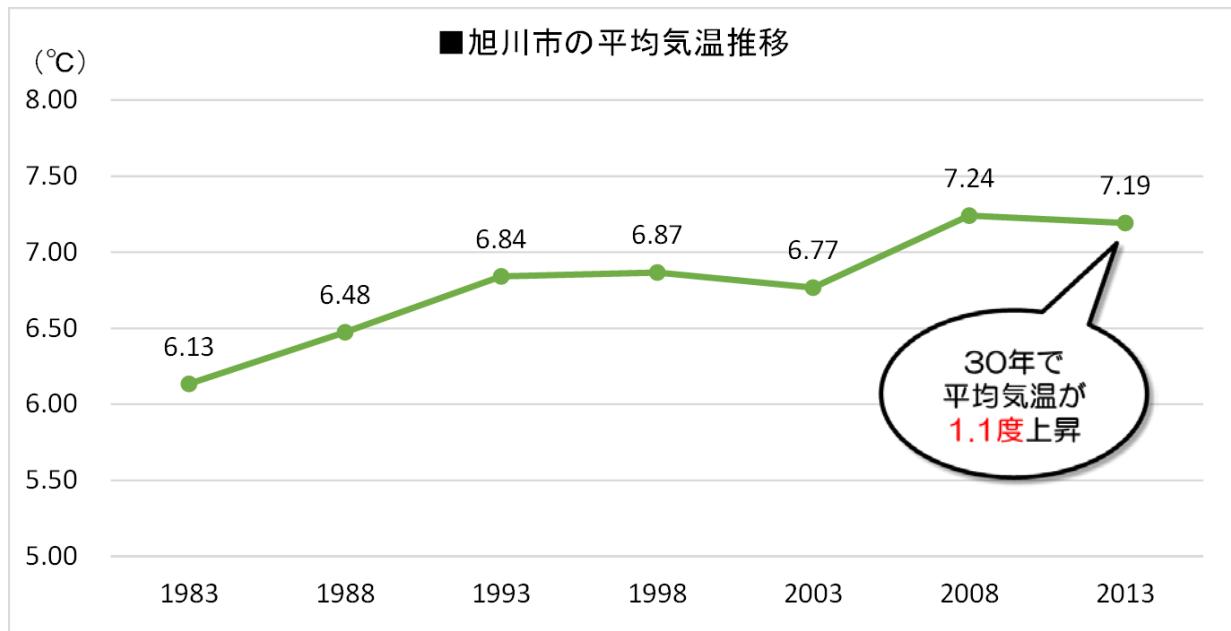
	降水量(mm)	平均気温(°C)	降雪量(cm)
1月	46.5	-9.3	76
2月	47.5	-7.2	86
3月	94.5	-2.1	134
4月	89	4.1	24
5月	53	10.6	-
6月	35.5	18.1	-
7月	58	22.8	-
8月	221	21.9	-
9月	211	16.5	-
10月	101	10.2	-
11月	125.5	3.3	66
12月	103	-2.6	137



② ヒートアイランド化の動向

旭川の市街地の気温は、この30年で1.1℃上昇しており、ヒートアイランド化の傾向がみられます。みどりの温度抑制によるクールアイランド効果は、市街地環境の改善方策の一つとして考慮していく必要があります。

■市街地のヒートアイランド化の傾向



<観測地点>

2004年以降：旭川市宮前通東4155番31（合同庁舎）
2004年まで：旭川市8条通11丁目

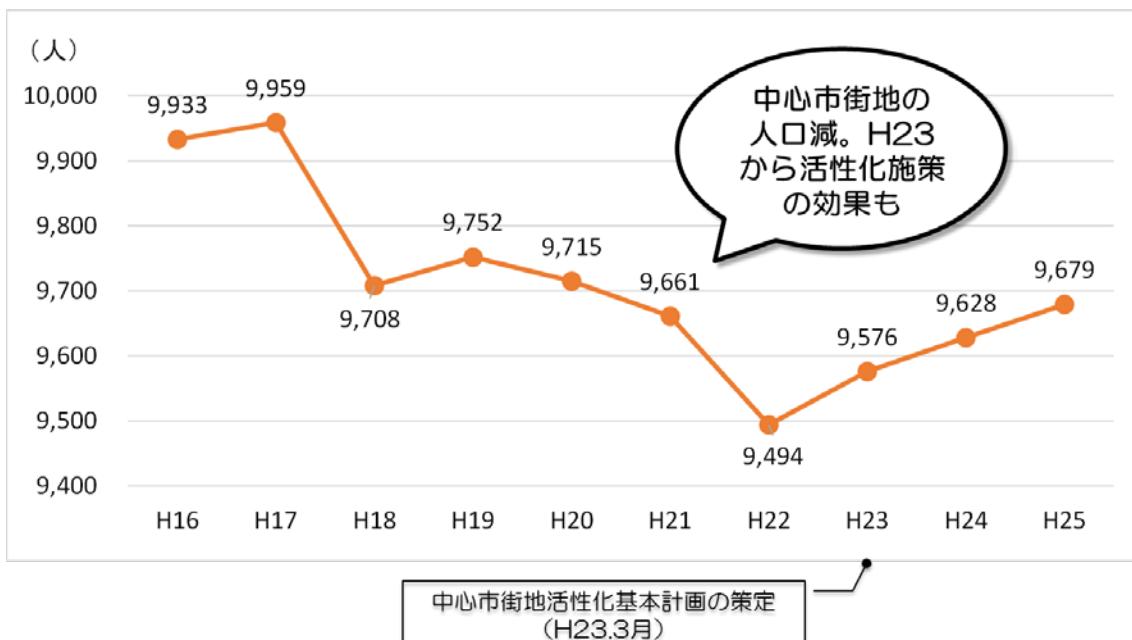
* 北海道内の同じ内陸性気候の都市と比較すると、現在の旭川の年平均気温は30年前の道南の北斗市と同程度になります。

【北斗市】1984年:7.2°C → 2014年:8.6°C

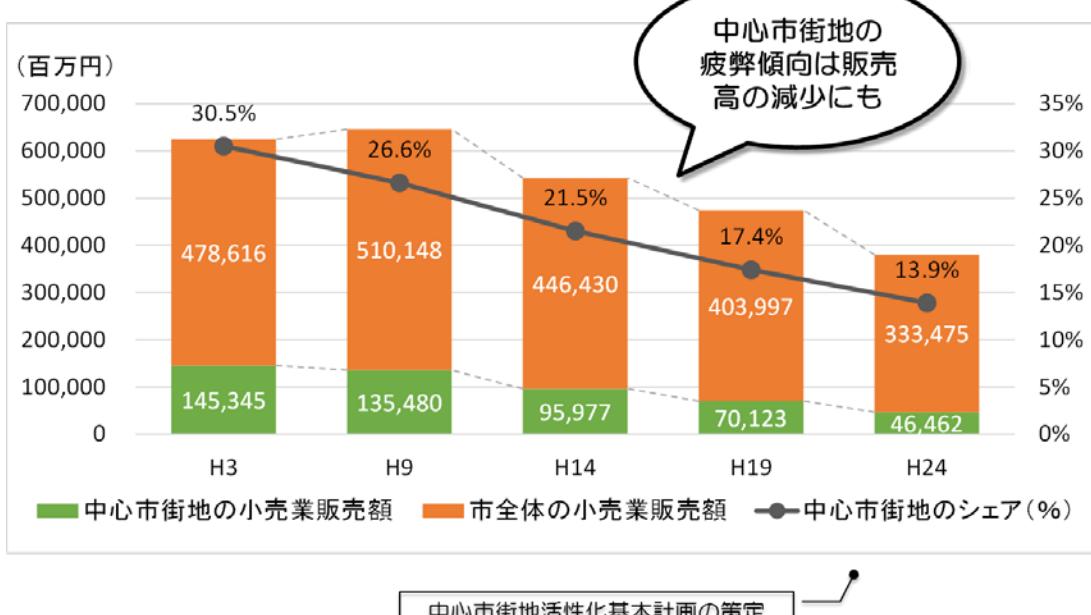
1-4) 中心市街地の動向

旭川市の中心市街地は、車社会と市街地拡大などにより、その活力低下が顕著となっています。居住者数の減少、売上高の減少、歩行者通行量の減少などが進展してきましたが、旭川市では中心市街地活性化基本計画（平成23年）を策定し、にぎわいづくりの施策展開を図っており、中心市街地の魅力づくりを担う要素として、みどりのあり方が重要となっています。

■ 中心市街地の居住者数の推移



■ 中心市街地の小売年間販売額の推移



■中心市街地の1日あたりの平均延べ通行量の推移

